

ました。大きな木が枝をひろげ、その下をきれいな水が流れていました。木の葉の間から、やわらかい秋の夕日がさして、お城がかがやいてみえました。

会津に大きな戦争があつて、逃げたときのこと、少しはおぼえています。

あのころ、父は、殿さまといつしよに京都きょうとの方に行つていて、家にはいませんでした。敵が会津に攻めこんできたときは、お城の早鐘はやかねが鳴らされて、町の中は大きわぎでした。

「かし子は、お父さまがいなくとも武士

